

4.6 Java 実行環境の設定（オプション）

パッケージソフト（netNACCS 処理方式）にて申請書作成ソフトを使用する場合には Java のインストール、および設定が必要です。以下の手順（※）にて、Java のインストール、および設定を実施してください。

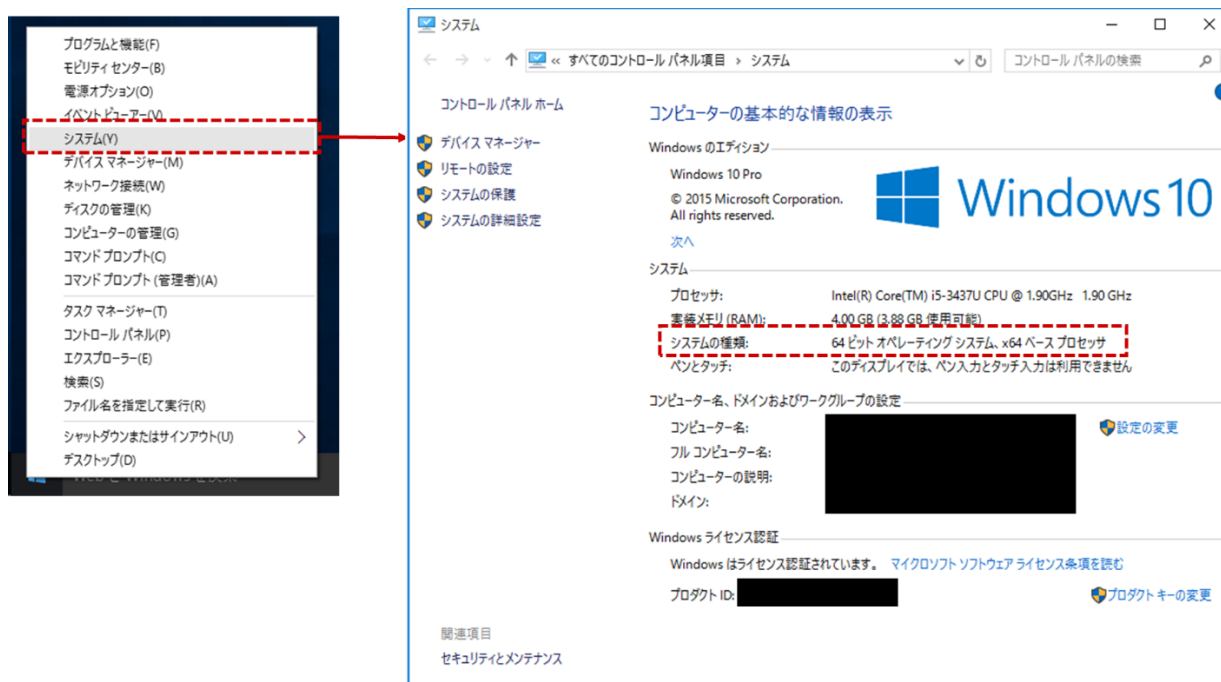
すでに Java をインストール済みの方は「（2）申請書作成ソフトを起動する Java の設定」から実施してください。

※ 2019/1/31 時点での手順となります。ダウンロードサイトの URL、および UI が変更となる場合がございますが、ご了承ください。

2019/2/1 より、Oracle Java8 は Oracle 社による無償サポートの対象外となりますので、OpenJDK11 へ移行が必要となります。OpenJDK11 は 64bit 版 OS（※）でのみ利用可能であるため、32bit 版 OS（※）をご利用の方は、64bit 版 OS へ移行をお願いします。

32bit 版 OS を引き続きご利用の方は、Oracle 社の有償サポート契約のうえ、Oracle Java8 をご利用ください。

※ OS の bit 数は [コントロールパネル | システム] の [システムの種類] にて確認できます。
例) Windows10 の場合、スタートメニューを右クリックから [システム] を選択することで OS の bit 数を確認できます。

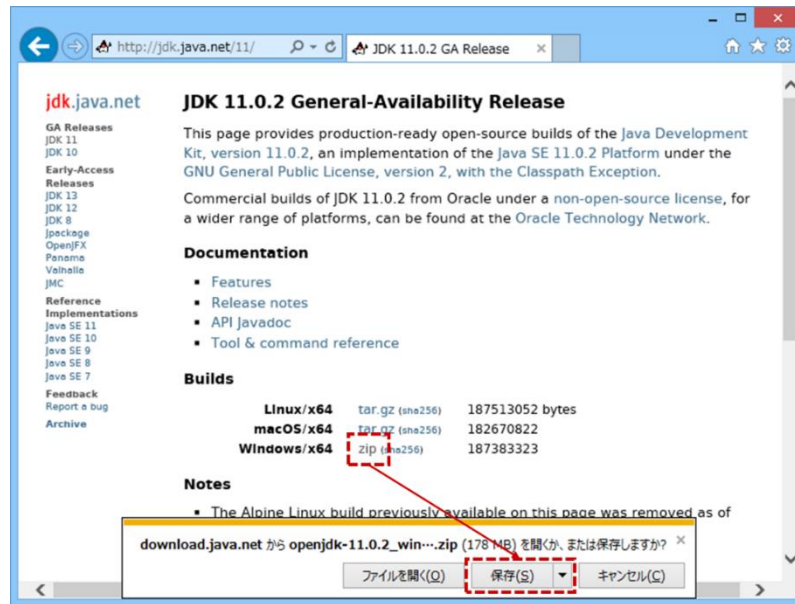


(1) Java (OpenJDK) のダウンロード

1. Webブラウザにて、「<http://jdk.java.net/>」へアクセスします。
2. NACCSセンターより指定されたJDKバージョンをクリックします。

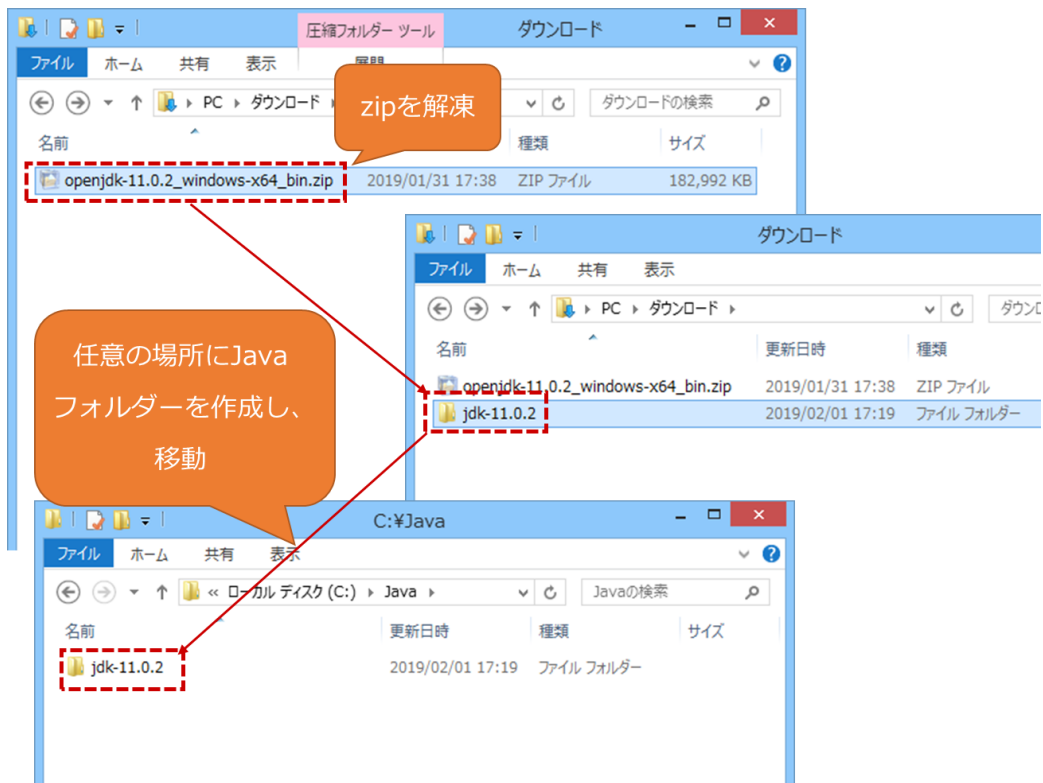


3. [Windows/x64] の [zip] をクリックし、zip ファイルをダウンロードします。



4. ダウンロードした zip ファイルを解凍し、任意の場所に Java フォルダを作成し、移動します。

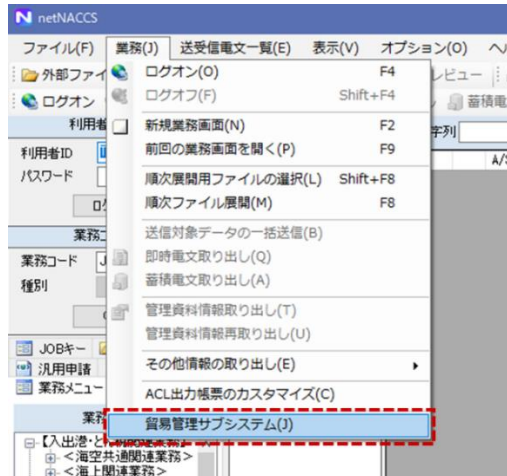
例) C:¥Java



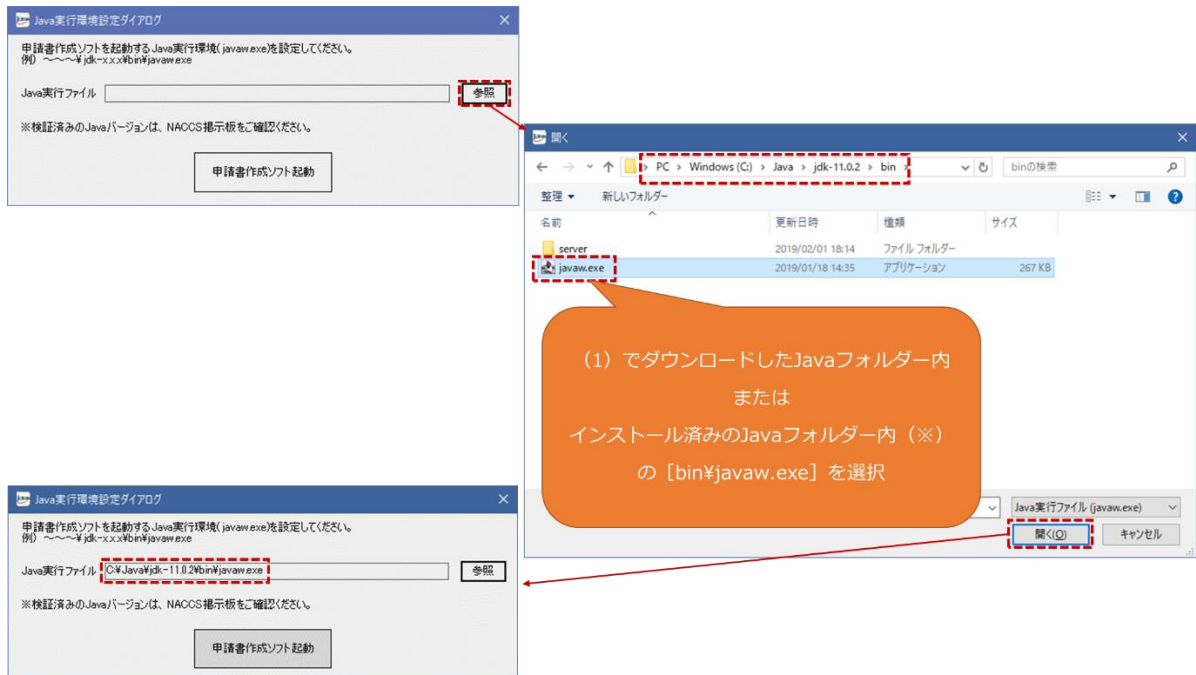
(2) 申請書作成ソフトを起動する Java の設定

ダウンロードした Java を申請書作成ソフト起動用 Java として設定します。

1. パッケージソフトのメインメニュー [業務 | 貿易管理サブシステム] を選択します。

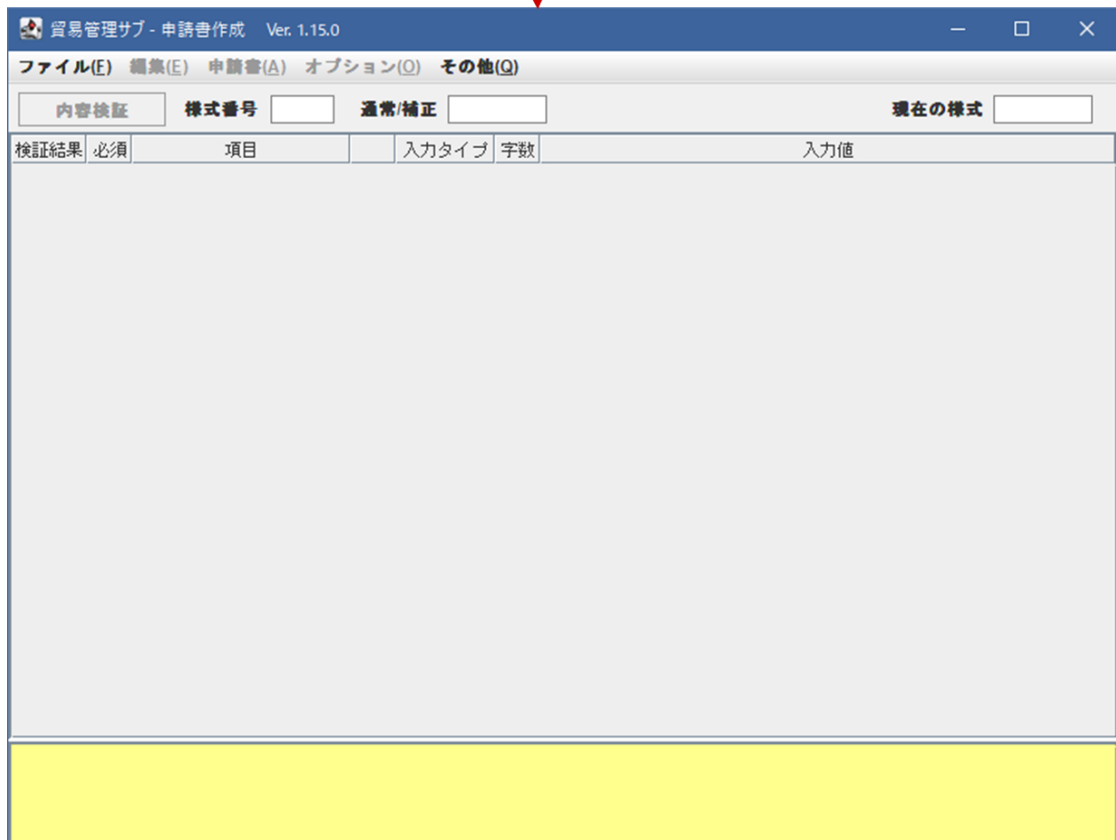
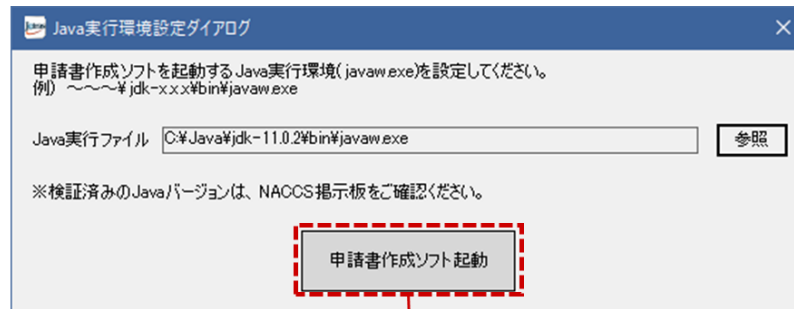


2. Java 実行環境設定ダイアログが表示されるため、[参照] ボタンより Java 実行ファイルを指定します。



- ※ 32bit 版 OS にて、Oracle 社と有償サポート契約を結んだうえ、引き続き Oracle Java8 を使用する場合、初期インストール先は「C:\Program Files\Java」配下となります。

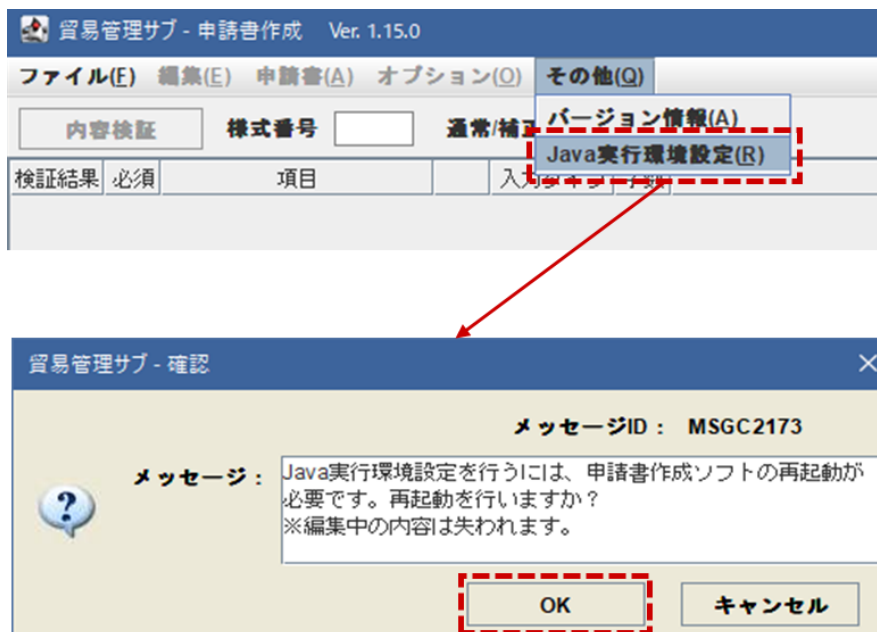
3. [申請書作成ソフト起動] ボタンをクリックし、申請書作成ソフトが起動することを確認します。



(3) Java 実行環境の再設定

Java のアップデートが発生した場合、申請書作成ソフトのメニューより Java 実行環境の再設定が可能です。

1. 「(1) Java (OpenJDK) のダウンロード」を参照し、Java ファイルをダウンロードします。
 2. 申請書作成ソフトの [その他] メニューから [Java 実行環境設定] を選択します。
 3. 再起動確認ダイアログが表示されますので、問題なければ [OK] ボタンをクリックします。
- ※ 編集中のファイルがある場合、内容は失われます。保存してから実行してください。



4. Java 実行環境設定ダイアログが表示されるため、[参照] ボタンより、ダウンロードした Java ファイルを設定し、[申請書作成ソフト起動] ボタンをクリックします。（「(2) 申請書作成ソフトを起動する Java の設定」を参照）
5. 設定した Java 実行環境にて、「申請書作成ソフト」が再起動されます。